

令和7年度

学校評価項目

珠洲市立上戸小学校

重点 目標	自己評価						備考	
	評価項目	具体的取組	評価指標	評価：達成度判断基準		取組の状況・結果		達成状況
学 び づ く り	総合的な学力 の向上	・学力調査の結果を分析して定着 していない内容を授業や朝学習での 補充 ・授業での学んだ知識や言語力を 活用して思考，判断し表現する活 動場面を設定 ・国語検定，算数検定の実施	【成果指標】 各種・学力調査の結果が 県及び国の平均を上回っ ている。	全国学力学習状況調査・県基礎学力 調査の結果が県平均・市学力調査の結 果が全国平均を上回っている教科が全 体の		調査対象は11科目で，そのうち全国平均 や県平均を上回っている科目は11科目 で100%だった。各学年において，确实 に学力が向上している。学力調査の結果 を分析し，一人一人の児童のさらなる学 習内容の定着を目指し，学習指導の改善 を図っていきたい。	A	主担当：中村 評価方法： 学力調査 評価実施時期： 8月，1月
				A:	80%以上			
				B:	75%以上			
				C:	50%以上			
				D:	50%未満			
	学力向上ブラ ンの推進	・授業でリレートークによる対話場面 の設定  ・話し方，聞き方を各学級の実態に 応じた指導	【成果指標】 相手の話をしっかり聞いたり 自分の考えを伝えたりす ることができる力が児童に 身に付いている。	学習アンケートで「みんなに聞こえる声 で考えを伝える」という項目で肯定的な 回答をした児童の割合が		4月～7月のアンケートでは，肯定的な回 答をした児童の割合は 95%だった。自分 の考えと比べながら友達の話の聞き、自 分の考えを伝えることができている。集会 の場でも，積極的に自分の考えを伝えら れるようにしていきたい。	A	主担当：中村 評価方法： 児童に対する学習 アンケート 評価実施時期： 7月，1月
				A:	95%以上			
				B:	85%以上			
				C:	75%以上			
D:				75%未満				
GIGA スク ール構想の推進	・週に一度，タイピングの技能を計測 する時間の設定 ・まとめ学習や家庭学習等で，積極 的なクロームブック活用 ・3年生以上でのローマ字の定着	【成果指標】 児童にタイピングの技能が 身に付いている。	タイピングのアプリを活用する。5分間 で入力できる文字数の平均(3～6年) が		3年生以上は，朝学習で週に一度タイピ ング技能を測定する時間を設けた。平均 は，451文字と目標を大幅に超える結果 となった。個人差もあり，25%の児童は D であったがどの児童もタイピング技能の向 上が見られた。今後も継続して取り組んで いくとともに，まとめ学習や家庭学習での 活用も積極的に行っていきたい。	B	主担当：辻・松本 評価方法：タイピン グアプリ 評価実施時期： 7月，1月	
			A:	390文字以上				
			B:	360文字以上				
			C:	330文字以上				
			D:	330文字未満				
つ づ く り	明るい挨拶で 笑顔があふれ る学校づくり	・生活目標に挨拶に関する目標を設定 による挨拶の習慣の定着  ・「あいさつ4つのコツ」を学級で指導 し意識化	【満足度指標】 児童がすすんで挨拶する 習慣が身に付いている。	児童アンケートで「挨拶は，明るく，いつ でも・どこでも・だれにでも，先にしてい る。」という項目で肯定的な回答をした 児童の割合が		アンケートの結果は肯定的な回答が10 0%だった。生活目標の設定や来客や施 設訪問に合わせた学級での指導から意 識して取り組むことができてきた。しかし， 普段の挨拶や急な来客等への挨拶で は，進んであいさつが出来ていな場面も ある。今後は，よりよいあいさつができるこ とを目指し，日頃から学校全体で指導し ていきたい。	A	主担当：辻 評価方法： 児童アンケート 評価実施時期： 7月，1月
				A:	児童の90%以上			
				B:	児童の80%以上			
				C:	児童の70%以上			
				D:	児童の70%未満			
	児童が相談で きる体制の構 築	・スクールカウンセラーの個人面談 の実施  ・担任との個人面談の定期的実施	【努力指標】 児童が相談できる機会を 設けている。	月1回以上児童との面談を行ったクラス が		毎月担任との個人面談を行うことができ た。今年度からは，学校生活アンケートに 「笑顔になったこと」の項目を設け，面談 でもプラスな声掛けができるようにした。ま た，6月には担任以外との面談やスクール カウンセラーとの面談を行い様々な先生 に相談できる機会を設けることが出来 た。今後も，児童がいつでも・だれにでも 相談できる体制を整えていきたい。	A	主担当：辻 評価方法：担任か らの報告等 評価実施時期： 7月，1月
				A:	3学級			
				B:	2学級			
				C:	1学級			
D:				0学級未満				

重点 目標	自己評価						備考	
	評価項目	具体的取り組み	評価指標	評価：達成度判断基準		取組の状況・結果		達成状況
体づくり	体力の向上	・毎回の体育授業での3分間走の導入 ・ゴールデンタイム等を通した、授業以外の時間にも、積極的に体を動かす状況づくり	【成果指標】 体力テストで持久力に関する項目「20mシャトルラン」が県平均を上回っている。	「20mシャトルラン」において、県平均を突破した児童の割合が		県平均を突破した児童の割合は81%であった。具体的取り組みをしっかりと継続できたことがよかった。今後は、持久走大会を児童のモチベーションとし、走り方を教えてくれる講師の派遣、マラソンカード活用した環境整備等に努めていく。	B	主担当:松本 評価方法: 20mシャトルラン 評価実施時期: 7月, 1月
				A:	90%以上			
				B:	80%以上			
				C:	70%以上			
	健康教育の推進	・「元気アップカード」を月ごとに実施し、規則正しい生活習慣の定着 ・早寝・早起きの大切さ、メディアの使用時間等についての指導。 ・朝ごはんの大切さや食事のマナー等の食育の実施	【満足度指標】 学校での指導や家庭での働きかけの結果、子ども達の生活習慣が向上している。	保護者アンケートの「早寝・早起き・朝ごはんが実行できている」という項目に肯定的に回答した保護者が		肯定的回答は88%であった。児童に行なう毎月の元気アップカードでは、全員朝食を食べており、起床時間や就寝時間においても意識して取り組む様子が伺える。今後も、家庭と連携し、生活習慣の向上に努めていきたい。	B	主担当:上田 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月, 1月
				A:	90%以上			
				B:	80%以上			
				C:	70%以上			
絆づくり・開かれた学校	地域の教育力の活用	・地域人材を活用し、地域の特色を生かした授業実践の実施	【努力指標】 生活科、総合的な学習、道徳などの授業やクラブ活動などで、地域の人材を活用する授業を行っている。	学期に1回以上行った学級が		国語や生活科、総合などで地域の方を招きし、全学級で地域人材を活用した授業を行った。2学期には、道徳の授業でゲストティーチャーを招いての授業を予定している。今後も、地域の特色を生かした授業づくりを推進していく。	A	主担当:梶 評価方法:担任からの報告等 評価実施時期: 7月, 1月
				A:	3学級			
				B:	2学級			
				C:	1学級			
	学校情報の積極的な公開と家庭・地域への適切な説明	・学校だよりや学級だよりの発行、ホームページの充実による保護者や地域方の学校経営方針や教育内容についての周知と理解の推進	【満足度指標】 保護者が学校の教育方針や児童の様子が伝わっていると感じている。	保護者アンケートで「学校だより、学級だより、ホームページ等で児童の活動の様子が伝わりやすい。」に対し、肯定的な回答をした保護者の割合が、		肯定的回答は100%であった。ホームページの更新頻度が昨年以上に増していることが要因として考えられる。一方で肯定的評価の内実を調べると、「とても」が減り「まあまあ」が増えていることから、学校だよりや学級だより、ホームページの内容については、検討していく必要がある。	A	主担当:三益 評価方法: 保護者アンケート 評価実施時期: 7月, 1月
				A:	85%以上			
				B:	75%以上			
				C:	65%以上			
人材育成・働き方改革	人材育成	・若手が中心となって、職員全体で学ぶ機会の設定 ・日常的に、かつ月1回短時間でも設定し、授業や行事に実践的に生きる研修の実施 ・夏季休業中の若手主催で研修会の実施	【満足度指標】 若手教員早期育成プログラムの研修により、職員が指導力や・授業力が向上したと感じている。	教職員アンケートで「校内研修が、授業力の向上や授業改善に生かされている」に対し、肯定的な回答をした教職員の割合が、		アンケートの結果は肯定的回答が100%だった。今年度は授業づくりを中心とした研修を実施している。若手の提案力を高め、指導力や授業力の向上を図るために他校と連携した研修会も実施した。後期は、「とてもそう思う」が100%となることを目指す。	A	主担当:梶 評価方法: 実施回数 評価実施時期: 7月, 1月
				A:	100%			
				B:	85%			
				C:	50%			
	働き方改革の推進	・校務分掌の平準化と担当の明確化を図り、意識改革の推進 ・業務改善のための会議の定期的開催 ・校務支援システムの活用による業務改善の推進	【成果指標】 教職員が働き方改革を意識して効率的に業務を行い、時間外勤務時間を削減している。	定時退校日を月に3回(第3水曜日、最終金曜日、マイ定時退校日)とし、定時退校日を3回以上取得した割合が、		149%であった。ほぼAを達成しているものの、今後は、一層、見通しを明確にしながら各自が業務に取り組むことができる状況をと整えていく。また、教育DX化に伴う校務支援ツールの使用法に戸惑い時間がかかってしまったこともあったが、今後は本来の業務軽減に役立つと考えられる。	B	主担当:三益 評価方法: 勤務時間記録表、職員アンケート 評価実施時期: 7月, 1月
				A:	150%以上			
				B:	130%以上			
				C:	100%以上			
				D:	100%未満			